



栄光園だより
第109号
2017年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南莊園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

子供たちを来させなさい



理事(民生児童委員)

猪股通安



そのとき、イエスに手を置いて祈っていたために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスは言われた。「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。」そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。

(マタイによる福音書19:13-15)

秋の運動会で子どもたちの歓声が聞かれました。子どもの声や笑顔は心地よいものです。毎月曜日、小学校の正門に並んであいさつ運動をしています。「おはようー」と元気にあいさつと笑顔が返ってきます。中にはしよんぼりして、心配になる子もいますが、校長先生や教頭先生たちの声掛けで少し

元気を取り戻します。顔見知りの栄光園の児童も元気に登校してきます。

保育の仕事辞め、7年が経ちますが、まだ子どもたちと触れ合う機会が与えられています。

先日の農業祭で「園長先生」と声をかけてきた家族がいました。お父さんが重度の障害を持つ長男に「園長先生だよ。覚えとるか？」と尋ねるとニコッと笑って「うん」とうなずきました。

私が「なっちゃん、何年生になった？」と長女に聞くと、「中1です」という返事があった。二人の懐かしく大きく成長した姿がうれしくなりました。

昨年の夏、孫と遊園地に行ったとき、遊園地のスタッフが私をチツラチツラとみるのです。誰かなと思いい出していると保育園児だったS君でした。「S

君?」「そうです。園長先生、わかりました。」と笑顔が返ってきました。もう立派な社会人になっていたので。このような出会いが時々あります。

4・5歳の幼児が、中学生や高校生、社会人になっても私を覚えていて声を掛けてくれるのです。

また、在職20年を過ぎた頃から、「園長先生！覚えていますか?○○です。お久しぶりです。今度、私の子どもが入園します。よろしくお願いします。」と卒園児が結婚し、その子どもが入園してくるようになりました。

このような素晴らしい子どもたちの

成長に関われたことに誇りを感じます。子どもたちやその両親に覚えられているだけでもすごくうれしいことです。しかし、私は、神様にいつも覚えられていたのです。保育の仕事に就いたことも偶然(ある意味では必然)の転職であり、イエス様との出会いへの道でした。

苦しいことや涙することも多々ありましたが、振り返ってみると、常にイエス様が共にいてくださり、慰めと恵みに充たされていました。

40年間保育の仕事に携われたことは、神様の恵みであり、感謝です。

クリスマス祝会のご案内

12月16日(土) 13時より

児童養護施設栄光園では、毎年12月の第3土曜日、クリスマスの祝会をホールにて行っております。

本年度は、12月16日(土)13時より礼拝と祝会が始まります。その後、会食となります。年末のお忙しい中ですが、心を静めてイエス・キリストのご降誕を子どもたちと共にお祝いしていただかせませんか。お立ちよりいただければ、ありがたいです。

参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただいております。



児童養護施設

キャサリンホーム



児童指導員 衛藤 彩香

ホームの雰囲気づくりと実習

現在キャサリンホームでは小学生5名、中学生1名計6名の男児で過ごしています。

今夏、キャサリンホームには男性1名、女性1名計2名の学生が約10日間実習に来ました。

子どもたちは実習生一人ひとりに対し毎回様々な姿を見せます。

例えば、男性の実習生とは、一緒に外で思いっきりはしゃぐ姿やお互いの考えを伝え合いながら工作を作る姿がありました。また、女性の実習生には、隣に座り照れながら話す姿や何を話そうか実習生の様子を見ながら少しずつ近づき話しかける繊細な姿がみられました。また実習最終日に涙を流す子どもたちの姿も見られ、どれも印象的で新鮮でした。

その中で私は、実習生が子どもに対しての疑問や思ったことをすぐに聞けるホームの雰囲気を作る重要性を実感しました。職員の声かけや対応について早い段階で質問してもらおうことで、短期間での実習で子どもとの関わりがより深まると考えるからです。今後、実習生が子どもとだけだけでなく、職員とも話しやすい雰囲気作りを心がけていきたいです。

ウエストホーム



児童指導員 東條 岬

子どもの生活の中に入る

今年度ウエストホームは、保育士を目指す実習生1名を受け入れました。ウエストホームは、高校生4名、中学生3名の中高生のホームです。中高生男子のホームでの実習で難しいところは、子どもとの関わりです。幼児や小学生と違い、子ども自ら実習生に関わりをもとうとするのはなかなかありません。そのなかで、実習生がいかに子どもの輪の中に入れて行けるかが難しいところです。今年度、受験を控えている中学3年の男児には、学習支援を通して関わりを深めていきました。また、趣味の話から会話を広げ、関わりを深めていこうとする姿がありました。

児童養護施設での実習は、子どもの生活の中に入って実習をするということとです。それは、保育園や幼稚園での実習との大きな違いであり、特に中高生ホームは自立を視野にいれた関わりが求められます。今年度の実習生も戸惑いを感じつつ、その違いを感じていました。

実習を通して、社会的養護における児童養護施設の役割、やりがいを見つけ、子どもの幸せにつながるような職業選択をしてほしいです。



ムラカミホーム



保育士 小野 紘子

実習したホームで働いて

ムラカミホームは、幼児3名、小学生2名、高校生1名の計6名の女児が生活するホームです。

今年度はホームに、4名の学生が実習に来ました。私も3年前の学生の頃、ムラカミホームで実習をしました。とても暖かい雰囲気、養護施設で働く楽しさや大変さを知ることが出来た実習でした。特に子どもたちと関わりが難しい場面での、職員からのアドバイスや職員の子どもの想いを知り、感

マツモトホーム



児童指導員 太田 有香

本園で働きたい？

今年度、マツモトホームにも保育士や社会福祉士を目指す学生4名が実習に来ました。

マツモトホームは2歳から中学2年生までの幼児5名のホームです。実習生に威張る幼児、最終日には毎回のよう泣く実習生のことが好きな小学生、実習生と一定の距離を置く中学生。実習生は一筋縄では行かない子どもたちを翻弄されながらも頑張っていました。ただ子どもたちと関わる中で困りや

動した事が印象に残っています。そのような体験から、実習生にも私が感じた気持ちや伝わるよう心掛けました。

反面、私自身は、正しい助言が出来るのか不安もあり、実習生に指導をする難しさを痛感しました。指導方法や助言方法に困った時は、先輩職員に助けて頂きました。その中で、実習生にとって、学びとなる事が1つでもあると嬉しく感じました。また、私自身も、実習生の穏やかな関わり方を通して、初心を思い出すことができた素晴らしい機会にもなりました。



質問が生じた時、すぐに職員に聞くことは難しさがあつたようです。日誌を見て初めて知ることが多かつたです。そのため話し掛けやすい雰囲気を作ることや職員から働き掛けることの大切さを感じました。子どもと関わるだけではなく、その場での職員とのやりとりを通してより学びが深められると考えているからです。

実習を終えた時、児童養護施設で働きたい、本園で働きたいと思う実習生が1人でも多くなるように、できることをしていきたいと思えます。



オゴウホーム



保育士 後藤 真平
養育のやりがいを伝える

オゴウホームでは幼児から中高生までの子どもたちが一緒に生活しています。実習に入ってもらう際には、特性を持った子どもへの配慮点や最近の様子を伝えた上で、積極的に子どもと関わるようアドバイスしています。大半はお互いに遠慮してぎこちないやり取りでのスタートです。そこから実習生の丁寧に関わろうとする姿勢や気持ち次第で、子どもたちとの親密さも大きく変化していくように感じます。

また実習期間中は生活場面の中で様々な課題に遭遇します。私たち職員も試行錯誤と工夫を重ねながら支援を行っています。そこから子ども一人ひとりにあった対応を知ってもらうことで、気付きや学びの機会になれば幸いです。

短い期間の中ではありますが子どもと実習生の関係が深まり、最終日にお互いに別れを惜しむ姿を見ると私たちも嬉しくなります。これからも実習生の皆様に養育のやりがいを少しでも感じてもらえるよう、自分磨きを継続していきたいです。



ノマチホーム



児童指導員 左甲斐由紀子
保育士 帆秋 堅太
無人島デイキャンプ

今年のノマチホームの夏休みは大阪市佐賀関高島キャンプ場へデイキャンプに出かけました。今回のデイキャンプは、日頃ホームでの恵まれた生活に慣れた子どもたちが電気・ガス・飲料水が全くない環境で非日常的な生活体験をすること。その中で買物や簡単な調理などを含めた経験をするを目的に無人島である高島キャンプ場を選びました。部活生を除く、ホーム児

実習生の受け入れ

総主任 岡田 豊弘

少子高齢化が進む中で、保育・福祉系の短大、大学、専門学校は学生を確保することに苦闘し、自ずと学生のニーズにそった実習先を探すことが学校側としても生き残る条件になっているようです。同様に、不安定な社会情勢も影響し、児童福祉の分野を志す人材が減る一方でもあります。施設側は待っていても人材確保はできないのです。よって、当施設では県内外の実習生を可能な限り受け入れます。ここ数年では年間30名近く受け入れています。これは、人材確保、啓発的な意味も含め施設側の戦略です。実際に、過去3年間で、10名以上の新卒の学生が採用に至っています。年間30人の実習生の受け入れですから、自ずと、毎日どこかのホームに実習生がいることとなります。正直、実習生を受け入れることは、大変です。事前指導や勤務割、宿泊場所の調整、実習中の指導や評価、そして、実習生がいますと何より子どもたちも普段ではでない行動が出たりしますし。しかし、皆、近い将来、保育士や社会福祉士として、児童福祉の分野を志す可能性のある若者であると思いながら、いつも笑顔で、そして真剣に実習生を迎え入れ、向き合っています。



童4名とホーム職員3名で短い無人島生活の始まりです。日頃経験することのない小型船舶に乗船し、高島へ。船の先端に行き、風を感じ、波しぶきを浴び、高島までの船の時間も楽しみました。島に着き、初めに全員で昼食づくり。役割分担し、火おこし、焼きそば・カレーづくり体験をしました。調理体験がある子どもを中心に火が通りやすいように具材の切り方を工夫してみたり、レジャーシート等を使い日影を作るなど、

みんなで知恵を出し合いました。昼食後は、釣りや無人島の探索、海水浴をそれぞれ楽しみました。今回の経験を日常生活に少しでも役立て、これからもホーム全員で様々なことに挑戦していきたいと思えます。



乳児院

やっと秋らしくなってきたかなと思えば、真夏のような暑さがぶり返したかのような気候になり、まだまだ衣替えは先かな？と諦めています。こんなに気温の差があっても、乳児院の子どもたちは、モリモリ食べ、たくさん遊び、元気がいっぱいです。そんな子どもたちのそれぞれの秋を見てみました。

体力づくりの秋

ぞう組の子どもたちは体力がついてきて、午前中にたくさん外遊びをしても、お昼寝の時は「まだ眠くなくい」と起きていることが多くなりました。



そんな子どもたちは、最近では乳児院の園庭の遊具だけでは物足りず、児童養護施設の園庭にお邪魔して、遊ばせてもらうことがあります。子どもたちはブランコや鉄棒で遊ぶことが楽しく、また上手になってきました。この秋にさらに体力をつけて、冬になっても病気を吹き飛ばすぞ。

食欲の秋

うさぎ組の子どもたちは、みんなでお買い物に行きました。たくさんのお菓子があふれる中でお菓子コーナーへまっしぐら。それぞれ好きな(食べたい?)お菓子を手にとっていました。すぐに手に取る子、慎重に選んでいる子と様子も様々でした。乳児院に帰ってさっそくお菓子を広げておいしそうに食べている姿を見て、とてもほほえましかったです。

うさぎ組の子どもたちもたくさん食べて、寒い冬を元気に乗り越えていこうね。



おでかけの秋

りす組の子どもたちは、お出かけをしました。初めて見る景色に目をきらきらさせさせていましたが、大好きな職員と一緒に、いつもは散歩の途中でも眠ってしまう子どもたちですが、この日は乳児院に帰るまで起きていて、とても楽しい時間を過ごしたようでした。これからお出かけには絶好の季節になるので、色々な物をたくさんみて、たくさん触れて、たくさん感じて、心も身体も大きく育ってほしいと思います。



青山保育所

夏のお楽しみ

ばんだ組のお友だちは、ジョウロやカップで水を汲んだり、ペットボトル鉄砲をしたりして遊びました。子どもたちも道具の使い方が回数を重ねることに上達し、ペットボトルの水に沈めて水を入れたり、中にはペットボトルの口にジョウロで水を注ぎ入れたりしている子どももいました。7月の頃は顔や頭の水が掛かることに抵抗があった子どもも、この頃には多少の水しぶきが掛かることはもちろんのこと、頭からシャワーをかけても平気になってきたり、保育士と一緒にプールに入って楽しめるようになったりしました。





小さな発見、大きな一歩

後半には大型プールにも入りました。最初は子どもの足首ぐらいの水深から始め、最終的には子どもの腰ぐらいまでの水深で遊びました。日頃、ぞう組やきりん組のお兄さん・お姉さんが遊んでいる大型プールはぼんだ組の子どもたちにとって、とても魅力的なようでした。

食紅を使って色水遊びをした時の事です。食紅を入れると水の色が変わっていく様子を楽しんでいました。中には色が混ざり変化していく様子に気づくお友だちもいました。

また、氷を触って遊んだ時には、小さな一粒の氷を1人1つ手に持ったり、大きな氷を友だちと順番に抱えたりし

て遊びました。「氷が溶けてくるとお水になる!」と興奮したり、溶けた水の形を見て、「お皿みたい!」「歯ブラシみたい」と発見したりしていました。子どもたちが興味を持って遊びに取り組んでいる時の集中力はすごいですよね。今回の二つの遊びはまさしく子どもたちが興味を持って、自ら色水遊びに取り組んだり、氷を観察したりした中で気づいた発見だったのではないかと思います。これからも子どもたちが自ら遊んでみたいと思ってもらえるような活動を考えていきたいと思っています。

おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気でいてね

ぞう組2年生のお友だちは、9月の敬老の日を前に、保育園の近くにある福笑居さんを訪問しました。おじいちゃん、おばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、一緒に手遊びをしたりしました。おじいちゃん、おばあちゃんに手作りのプレゼントを渡しているときに、あるお友だちが、急に泣き出したので話を聞いてみると、「おじいちゃん、おばあちゃんがプレゼントを受け取ってくれてとても嬉しかったから」と話してくれました。

子どもたちがお年寄りの方と一緒に触れ合い遊びをしたり、プレゼントを受け取ったりする交流を図ることで、子どもたちとおじいちゃん、おばあちゃんたちの心の交流も図られ、素晴らし

い体験ができたなと感じました。



みんなで頑張った運動会

10月7日に運動会がありました。子どもたちは、運動会に向けて練習を重ねてきました。はじめは越えられなかった障害物が越えられるようになった姿、ついには元氣よく挑むようになった姿、かけっこで転んでも立ち上がって最後まで走る姿、負けて悔しがる姿。これまでの練習の様子を見てきて、子どもたちの成長を実感した場面にたくさん出会いました。



運動会当日は普段と違う雰囲気、子どもたちも緊張していたと思いますが、これまでの練習の成果が発揮できたのではないかと思います。運動会が終わり、あるお友だちが自分のおじいちゃんから「走るのが速かったなあ」と褒めてもらっている場面を見かけました。子どもたちにとって、身近な大人に褒めてもらえることは何より嬉しく、その後の自信につながっていくのではないかと思います。私たち保育士も、子どもたちの頑張りを認め、褒めてあげられるような言葉かけをたくさんしていこうと思います。

今回は、保護者競技、保育園に通っていない小さいお友だちの競技、幼稚園小学校に通うお友だちの競技に加えて、祖父母競技のプログラムを取り入れました。青山保育所は、保護者の方、地域の方に支えられています。この運動会が、みなさんが楽しめる運動会になることを願っています。



野口保育所

蒸し暑い夏も終わり、朝夕も涼しくなってきました。吹く風には金木犀の香りも漂いだんだん秋が深まってきたように感じる今日この頃です。考えるとも今年も残す所2ヶ月、時が経つのは早いものですね。毎日を大切に子どもたちと過ごしたいなと思います。
夏から秋にかけての子どもたちの様

子を少しずつですが、ご紹介していきたいと思えます。

夏の遊び



夏ならではのプール遊びや色水あそび・シャボン玉あそびなどたくさん夏の遊びも子どもたちは夏の太陽のようにキラキラ輝いていました。



夏祭り

8月5日(土)に「夏祭り」が行われました。今年には「キャラクターいっぱい夏祭り」をテーマにお神輿を作ったり、職員がたぐさんのキャラクターに扮した催し物も子どもたちや保護者から笑いを頂きました。ゲームや景品も

毎年手作りで、園児や保護者や地域の方にも喜ばれました。今年も沢山の思い出ができた夏祭りでした。



おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会(え)

9月16日には、敬老の日を兼ねて子どもたちのおじいちゃんおばあちゃんを保育園にご招待しました。

お楽しみ会では、おじいちゃんやおばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、今年はお弁当形式にし、おばあちゃん方お弁当箱に詰めてもらいみんなで食べました。

おじいちゃんおばあちゃんから「あまり遊びに来てもらえないから、嬉しい！」や「たまにしか会わないので、

成長ぶりにビックリしたわ」など、たくさんさんの声が聞かれました。また来年もこのような機会ができると良いなと思っています。



お月見会

10月4日にお月見会をしました。由来の話や月の形についてのお話を聞いたり、お供えもののお芋やぶどうなど秋の味覚を眺めたりしました。その後、りんごぐみ・めろんぐみはおやつに食べる団子作りをしました。いちごぐみ・みかんぐみ・ぶどうぐみは給食のお汁に入れるきのこや野菜をちぎって楽しみました。



職場体験

中学生が職場体験にきました。自分で入りたいクラスを選び、緊張しながらも子どもたちと楽しそうに関わっていました。「保育士の仕事は思っていた以上に大変だった」「子どもたちが笑ってくれて嬉しかった」など様々な感想を教えてくださいました。

職場体験や実習生を迎え入れる度に、私たちが初心に戻り保育士のあるべき姿や仕事内容を見直し、「保育士になりたいな」と思ってもらえるように頑張りたいと思います。

研修を受けて

保育指針の改定に伴い、保育指針の研修会が次々に行われています。保育所・幼保連携型認定こども園・幼稚園・小学校が連携し子どもたちが最善の利益を受けられるように、また子どもたちが幼稚園、小学校へ上がったの困りを減らすために努力しないといけないと教わりました。今までは配慮事項のところを努力義務にもなり、保育士の質の向上にも努めなければならぬので、気持ちを向上させ研修を実のあるものにしていかねばなりません。

また保育士一人ひとりが毎日を自己評価(反省)し、昨日より今日、今日より明日と良い保育が子どもたちに提供できるよう努めていかなければならないと痛感しています。

聖書の言葉

聖書 詩編16編1節

評議員(別府不老町教会牧師) 齋藤 真行



神よ、守ってください。あなたを避けどころとするわたしを。

教育の様々な現場で、「たくましさ」について語られます。「たくましい」子どもが、望ましいイメージとして語られます。ところで、「たくましさ」とはなんでしょうか。

「柔軟性がある」「生活力がある」「苦しみ耐える生命力がある」：など、「たくましさ」についていろいろな説明をすることができます。私なりにまとめると、「生きるための力と知恵がある」ことが「たくましさ」の意味なのではないかと思えます。子どもがこのような生きるための力や知恵を身に付けて育つことができれば、それは大変素晴らしいことですし、教育の大きな目的もそこにあると言えます。子どもたちが生きていくために必要な力、知恵、技術を身に付けることが、大人として自立していくためにどうしても必要です。

しかし、もっと深く考えてみますと、私たちがこのような力をどれほど身に付けても、やはり限界があることを思わずにはいられません。強靱な肉体を作ることを目指し、記録を塗り替えるために厳しい訓練に耐えているアスリートは「たくましい」と言えますが、病気にかかるだけでその力を発揮できなくなります。天才的な頭脳の人といえども、睡眠不足や過労の状態では知性は働かなくなりま

す。私たちが身に付ける「たくましさ」は、特定の条件のもとでのみ機能するものです。人間としてのこのような力は尊いものです。これだけに頼って生きていこうとすると、力を失ってしまうと、き

聖書は、人間としての「生きる力」「たくましさ」を、「避けどころとしての神を知っていること」として描いています。私たちが身にかけた力が尽きてしまい、失われても、神が私たちを守ってください。私たちが失望を味わい、人生に迷うとき、神が逃げ込めたいのシェルターとなってください。「避けどころ」としての神を信じるとき、たとえ自分のたくわえた知恵や力が働かなくなっても、なおこの神に支えられ、神のもとでやり直すことができる、そのような避難所を与えられるのです。

「避難所」としての神を知ることが、聖書が伝える本当の「たくましさ」なのです。



栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員のおもに大変大きな力となっております。ことをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どもの進学等を重点的に支援する目的で始めた「自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)」の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。ご協力よろしくお願いたします。

この季節も皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。
【2017年7月1日より2017年10月30日まで】

賛助金

- 安部 道人様 大分市
- 宇戸美和子様 大分市
- 萩野 克彦様 大阪府
- 鎌田 宏子様 横須賀市
- 木村 洋子様 大分市
- 立花 旦子様 大分市
- 帆足 和生様 別府市
- 匿名様 西宮市
- 舩田 泰義様 別府市
- 三浦喜美子様 大分市
- 宮沢 淑子様 大分市
- 山口産業(株)様 別府市
- (有)コーワ精起様 葛飾区
- (有)後藤商店様 別府市
- 伊勢 方信様 別府市
- 岩田 哲也様 大分市

一般寄付

- 別府市
- 大分市

エンジョイゴルフ鈴木規様 別府市

匿名様 別府市

匿名様 別府市

富田 三日様 大分市

花本 公恵様 別府市

別府不老町教会様 別府市

豊和銀行従業員組合 大分市

萬松寺 別府市

安東 秀典様 大分市

神鳥 慶子様 杵築市

特別物品寄付

オムツ・ミルク・洗剤等 阿部寿絵様

お菓子・ジュース 阿部勝之様

お菓子・ジュース 石崎めぐみ様

お菓子 ヴィーナスギャラリー別府様

ぬいぐるみ 井上せつ子様

お菓子・アイス 上野敏康様

ベビー衣料 江崎博登様

お菓子・ジュース (株)コンビネクス様

お菓子 (株)フレイム取締役会長下田英隆様

問題集(書籍) (株)ユーコー中村雄二様

アイスクリーム 九州アイスクリーム協会様

納豆 九州納豆組合大分支部様

スイカ・カボチャ 九州労働金庫別府支店様

パン ココラート様

お米 後藤正巳様

ジュース 社会福祉法人中央共同募金会様

缶ビール・甘味菓子 杉町圭蔵・千穂子様

衣類 染矢貴志・修介様

図書券 伊達直人様

お菓子・ジュース・そうめん 長昌寺様

衣類 匿名様

玄米60キロ・スイカ 長岩保雄様

洗剤・文具等 中村里子様

野菜・ちりめん等 二宮洋典様

お米・野菜等 二宮篤様

じゃがいも・さつまいも

英会話教材・衣類 日本花の会事務局長阿野篤様

ジュース 花本公恵様

創立の精神の継承(書籍) 濱田セツ子様

衣類・靴 藤井未希様

なす ふるさと市場R213様

スピーカー等 別府市不老町教会様

花の苗 別府ロータリー様

CD 細川順三様

ゼリー等 三重野サナエ様

ジュース・ゼリー 光田加壽子様

お菓子 南荘園町自治会様

オペラトマト 森山拓様

乳児用品 矢内真愛様

お菓子 山口香様

栗 山本宣雄様

衣類・タオル (有)中村組様

お菓子 ユーコーラッキー様

ぶどう (有)豊田緑化様

自転車 リブレット基金事業財団様

招待・奉仕

小中学習ボランティア

安藤秀典・井上せつ子・木本直美様

英会話クラブ SBI子ども希望財団様

イングリッシュキャンプ SBI子ども希望財団様

一泊招待 大江戸温泉物語別府清風様

ピアノレッスン 奥山靖子様

スピードラーニング APUキャサリン様

児童の散髪 Kヘアー様

金曜学校 齊藤真行・庄司宣充・吉武二郎様

スポーツボランティア ティム・ディック様

湯々園地招待 別府市長 長野恭紘様

前号(108号)に掲載した

賛助金支援者の鎌田宏子様

住所に誤りがありました。

正しくは横須賀市でした。訂正してお詫び申し上げます。



賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

2016年の児童福祉法改正の実施について、新たな社会的養育の在り方に関する検討会の報告が8月2日厚労大臣に提出された。そこでは子どもが権利の主体であることが謳われている。このことはもちろん大切であり、大変重要であるが、第二次大戦以降の新しい憲法のもとでも戦争の被災者、水俣病、東日本大震災と原発事故など、また、臨時国会の推移を見ても、国民が権利の主体であるように到底思えない社会に、巣立たせる子どもは不憫さを禁じ得ない。生活の基盤構築は教育によるところが大きい。そのしあわせに漏れた国民の生活は福祉に依らなければならぬ。
政治・行政も含め、人と人とが等しく手をつなぐことは、上からの強権力がなければ実現しない社会は人の弱さのせいであろうか。
(敏)